

第 2 節 研究 2 保育所におけるコンピュータ利用

益井洋子・岸本肇・小田桐忍・伴浩美・岩崎智史

要約

本節では、まだその実態が把握できていない、保育所における ICT 活用の進捗状況について、アンケート調査結果を基にした分析を行った。調査の結果から、保育所におけるコンピュータの利用については、設備から考えても、豊かとはいえない実態が見えてきた。さらに、用途からは、大人側の利用について、便利であり、積極的に使用していることが分かる。保育園は経営状況から、設備を整えることの困難さが見えて来るが、積極的に取り入れる姿勢は弱いということが、今回の結論である。

キーワード

ICT、保育園

1. はじめに

保育所における ICT 活用の実態を把握することが、幼児期における ICT 活用能力システムの開発にとって、重要であると考え、全国を対象にアンケート依頼を実施した。保育園での子どもたちの生活や・育てるべき能力は、保育所保育指針に掲載されている。その中には、ICT に関することは、全く触れられていない。すなわち、子どもたちに対しての、育つべき能力は、体験的に身につけたいと考えていることから、ICT というものは、現実・実物から遠いところにあると考えられている。対子どもに対しては、必要性まで考えられていないのは事実であろう。対保育士にとっては、ICT は、必要な存在となっている。保護者との連絡などまた、事務的なことに関しては、コンピュータを使用することが社会に求められているといえる。

しかしながら、その実態を把握できていない現状である。日本の保育所におけるコンピュータ利用について、アンケートを基に、対保育者、対こどもの立場を把握し、ICT 活用と促進法について述べたいと思う。

2. 研究方法

全国の保育園を対象にランダムに選択し、郵送にてアンケートを送付した。アンケートの内容は、保育園の規模を把握し、記入者の年代、パソコン環境の実態、保育への活用などである。

3. 研究結果と考察

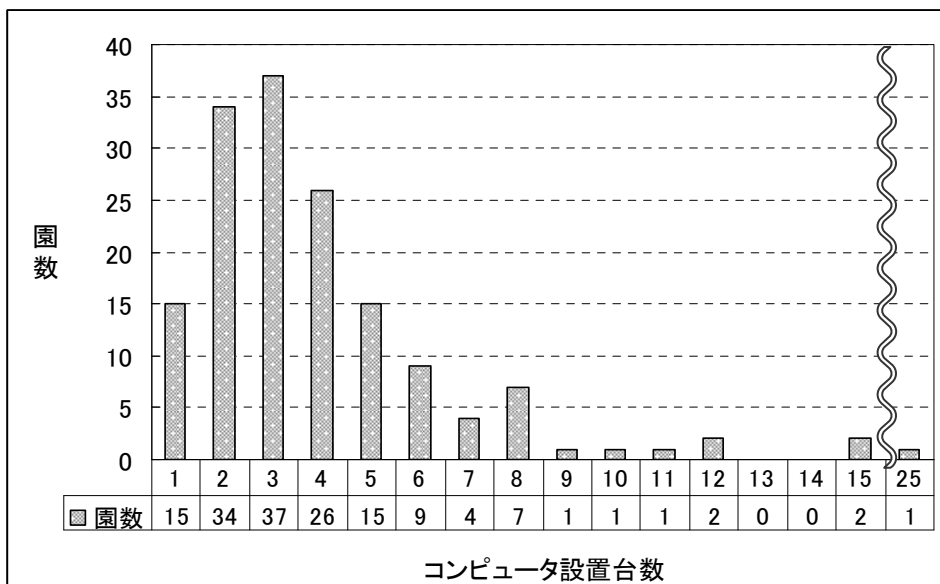
保育園については、156 園から返答があり、その内訳は、公立保育園 67 件、私立 87 件、無回答 2 件であった。今回のアンケートの記入者年代は、50 歳代 74 件、40 歳代 35 件、60 歳代 18 件、30 歳代 9 件、70 歳代以上 3 件、20 歳代 2 件、無回答者 15 件であった。

所在地は、北海道 12 件、東北 21 件、関東 33 件、北陸 10 件、中部 17 件、関西 17 件、中国 14 件、四国 7 件、九州 25 件からの回答であった。

コンピュータの設置台数は、3 台が一番多く 37 件、次いで 2 台が 34 件、3 番目が、4 台 26

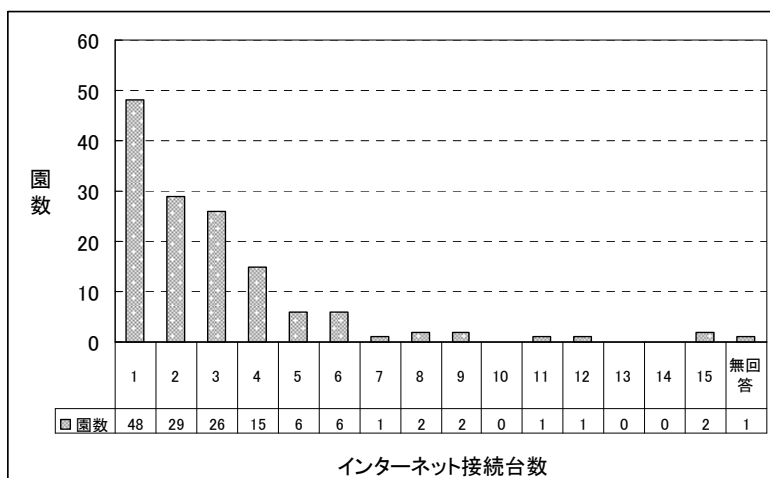
件であり、5 台と 1 台が 15 件であった。6 台は 9 件、8 台が 7 件、7 台が 4 件、9 台、10 台、11 台が各 1 件、12 台と 15 台が 2 件あり、一番多く設置している台数は 25 台で 1 件であった。全国的に保育園におけるコンピュータ設置は、厳しい結果と読み取れる。

Table 1 設置台数



インターネット接続台数は、1 台が 48 件、2 台が 29 件、3 台が 26 件、4 台 15 件、5 台 6 件、6 台 6 件、7 台 1 件、8 台 2 件、9 台 2 件、11 台 1 件、12 台 1 件、15 台 2 件、無回答 1 件であった。インターネット接続はなされているが、1 台から 5 台設置までが 2/3 以上という実態である。

Table 2 インターネット接続台数



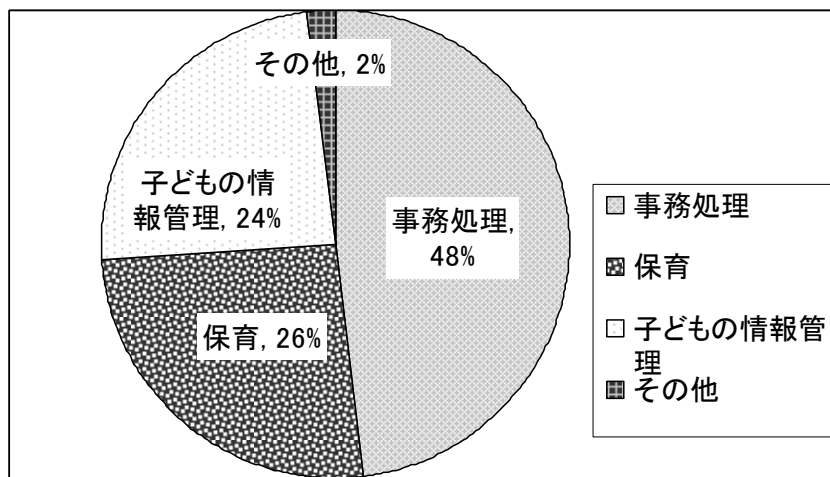
コンピュータ台数は足りているかどうかの質問に対して、「はい」という回答は、61%であり、「いいえ」という回答は 37%であり、無回答は、2%であった。コンピュータに対しての必要

性を、6割も感じていないことになる。

コンピュータの台数が足りているかという質問に対して、いいえと回答した方の必要台数の回答は、5台と10台が一番多く各8件であった。次いで、3台と4台を必要と回答したのは各7件であった。6台と7台は、各5件であった。必要であると思っている園は、5台・10台希望しており、コンピュータの必要性を感じている。コンピュータの使用用途は、事務処理48%であり、保育のため26%、子どもの情報管理24%、2%がその他であった。事務処理に必要性を感じていることが分かる。

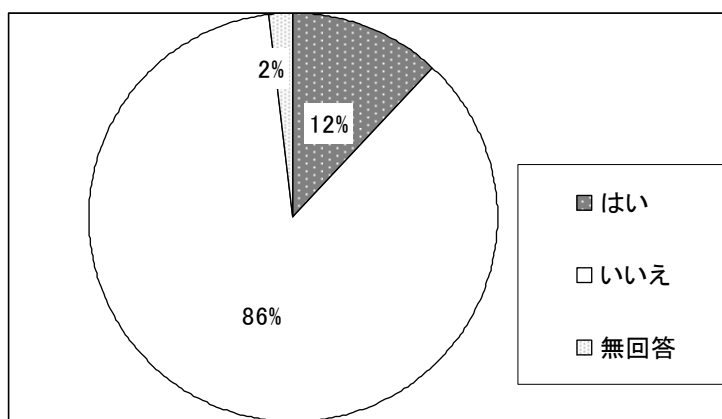
使用用途内訳は、44%がお便り、35%が情報関係である。その他9%ではあるが、HP、記録、週報、栄養管理、クラスカード、保健、会計管理、月報、名簿等の事務処理、給食、財務会計、メール、教材作成、役所と庁内LANなど多様な使われ方をしている。

Table 3 コンピュータの使用用途



保育にコンピュータを採り入れているかという質問に対して、次のような回答を得た (Table4 参照)。採り入れているとの回答は 12%であった。86%は採り入れていないという回答であった。無回答が 2%あった。保育にコンピュータを採り入れることは、まだ少ないという結果である。

Table 4 PC を保育で利用しているか



保育で利用されている状況は、次の通りである。5 歳児においては、全く使わない 7 園、年に数回 5 園、月に 1 回以上 4 園、週に 1 回以上 6 園であった。4 歳児では、年に数回使用は、6 園、月に 1 回以上は、4 園であり、週に 1 回以上は 5 園である。3 歳児においては、年に数回は 4 園あり、月 1 回以上は、3 園であり、週 1 回以上は 5 園であった。3 歳児未満では、年に数回 3 園、月に 1 回以上は、4 園であり、週に 1 回以上は 4 園であった。

利用内容は、卒業文集作り、プロジェクターを使い保育関係物を映写、教材、ライブカメラで保護者に保育を送信、スライド上映、担任と共にお絵かきソフトや分類ソフトを使用、パソコンに触れて楽しむ程度、音符などの掲示物、ひらがなパズル、DVD などの活用という回答を得た。

プロジェクターを使用しているかどうかの質問に対して、使用していると答えたのは、31% であり、使用していないと答えたのは、40% であった。無回答は 29% であった。

園児が使用できる PC はあるかどうかの質問に対して、はいと答えたのは、4% であった。ないと答えたのは、67% であった。無回答は、29% であった。

教育・保育支援のコンピュータ教材について、利用したことがある教材は、文字・言葉 12 件、数字が 8 件、外国語 2 件、音楽 6 件、美術・造形 9 件、体育・リズムダンス 5 件、行事 22 件、安全・防災 15 件、交通 10 件、絵本・紙芝居 6 件、その他 3 件である。その他であげられていた教材は、食育であった。利用してみたい教材は、文字・言葉 10 件、数字が 2 件、外国語 10 件、音楽 13 件、美術・造形 15 件、体育・リズムダンス 24 件、行事 20 件、安全・防災 28 件、交通 16 件、絵本・紙芝居 18 件である。利用している教材は、行事関係が一番多いが、利用してみたい教材は、安全・防災が一番多かった。利用している教材で二番目に多いのは、安全・防災である。安全・防災に対しての教材の要求が高いことが分かる。従って、教材については、内容によって興味があると考えられる。

自由記述で、コンピュータ利用についての肯定的意見は、次のようであった。「PC に触れ、操作に慣れることが先ず第一である。」「遊びの一環で学習するという環境があることを目指している。」「予算があれば、導入してもよい。」などの意見があった。否定的意見として、「幼児教育と PC については考えたことがない。」「大人が使うものである。」「子どもたちには、ゲームより自然で遊び五感を大切にしたい。」等の意見が多く、幼児教育における PC の必要性は感じていないようである。

4. まとめ

上記のように、保育所におけるコンピュータの利用については、設備から考えても、豊かとはいえない実態が見えてきた。さらに、用途からは、大人側の利用について、便利であり、積極的に使用していることが分かる。希望台数も 5 台から 10 台ということは、少人数の利用と考えられ、多くは大人の使用が主な利用の仕方である。子どもたちにとって、必要とされているコンピュータは、教材の中身によるものであろうことがよみとれる結果ではある。また、年齢によっても利用頻度が異なる結果から、年長になると、回数を多くし、年齢が低くなるごとに、回数を減らしているのが分かる。

保育園は経営状況から、設備を整えることの困難さが見えて来るが、積極的に取り入れる姿勢は弱いということが、今回の結論である。

小学校以上では、コンピュータ整備が進んでいるが、幼児教育や保育関係に関しては、まだまだ整備の必要性があることが分かった。今回の調査により、今後とも継続調査の重要性を感じた。

最後に、本研究プロジェクトの全体的なテーマである『幼児・児童における未来型能力システムならびに指導者教育システムの開発』から次のようなことが検討された。

(1) 幼児・児童の能力育成システムについて

子どもたちにコンピュータに触れさせるところから始め、コンピュータに依存しない多様な保育環境のもと、知的な内容やリズムなどの教材を活用することが可能である。

(2) 現職保育者・教員の指導能力育成教育システムの構築について

コンピュータ利用は一般的になっているが、子どもにとって良い教材の選択や、行事での活用についての能力を問われることが分かった。

(3) 保育者・教員の志望者（学生）を対象とした指導能力育成教育システムの構築について

コンピュータの利用については、保育園からのお便り作成力や、子どもたちの情報管理能力やプロジェクター利用方法などの能力が必要である。さらに子どもにとって必要な教材を選択できる能力が問われる。

5. 参考文献

- ・厚生労働省編「保育所保育指針解説書」 2008 年 5 月
- ・教育情報化推進協議会「教員の ICT 活用指導能力向上／研修テキスト 2008」 2008 年 3 月
- ・社団法人日本教育工学振興会 2010 年～2011 年版「情報化時代の教育メディアガイド」2010. 4